

令和5年度 分掌・学年努力目標 [年間評価]

[4:大変良い 3:良い 2:あまり良くない 1:良くない]

分掌名	目 標	具体的方策	目標数値また期間	前期評価	年間評価	問題点・課題等
教務部	校務遂行のための協力体制の構築	主任会を通して他分掌との連携を図り、学校行事の円滑な運営に努める。	必要に応じて主任会を開催する。	4.0	4.0	【前期または昨年からの改善点】 ・相互授業参観では、ユニバーサルデザインを意識した取組が増えた。学習に困難を抱える生徒も多いため、必要な配慮を今後もお願いしたい。 ・HPの更新を行事担当者で実施するようになり、多くの先生方が情報発信や学校PRに携わる良い機会となっている。 ・出欠黒板の朝SHR後の記入、遅刻・早退の把握、帰SHR後の「済」が定着し、生徒の出欠状況が正確に把握できるようになった。出席簿記入には課題が残る。 ・自習は授業時間にカウントできないため、可能な限り振替対応を行ってもらっている。 ・規程集の見直し、行事や時程等の見直しや精選を進めることができた。 【問題点・課題等】 ・連絡事項は前日までにポータルサイトや文書などで予め提示しておく、生徒も職員も余裕を持って準備・対応ができるため、協力をお願いしたい。 ・来年度は新教育課程の完成年度である。シラバス・進度表の作成時間が十分確保できず苦しいが、よりよい授業実践や評価につなげたい。 ・教育課程、コース制は見直しの時期にきていると感じる。次年度は教育課程委員会を中心として検討を始めたい。 ・追指導の在り方を検討する必要がある。 ・職員研修については、時期や内容等を検討し、負担増とならないような工夫が必要である。 ・「朝の読書」について、年度当初に全職員の共通理解をはかる必要がある。 ・年度末、年度初めは分掌の枠を超えた業務分担をお願いしたい。 ・年度末、年度初めの準備時間を確保できるよう、3月・4月の日程で工夫できる点を模索する。
		職員間の情報伝達を確実にするため、白板・ポータルサイトを効果的に利用する。	白板への連絡事項書き込みは前日までに行う。ポータルサイト・Newsメールを1日1回は確認するよう呼びかける。	3.6	3.6	
	学力向上推進 授業改善の推進	行事の精選や時間割の調整・変更を行い、授業時間数の確保に努める。	1単位あたり30時間以上の実施授業時数を確保する。	3.8	3.4	
		シラバスを作成し、より充実した学習活動に取り組む。観点別評価について研究に努める。	年度末に進度表、4月中にシラバスを作成する。シラバスはタブレット等で公開する。	3.4	3.0	
		生徒の学力の実態を把握し、より実践的な授業研究に努める。	授業力向上・相互授業参観期間を年に2回設定し、気づきや改善点を全職員で共有する。	3.4	3.6	
		生徒の実態を踏まえ、学期毎の追指導・補講に取り組む。	学年末の追認調査及び追認補講を受ける生徒を、前年度より少なくする。	2.8	2.8	
	学習指導の創意工夫	生徒の進路希望や実態を取り入れた教育課程を編成する。	7月上旬までに終了	3.8	3.4	
		魅力あるコース制の研究に努める。	年間を通して行う。	3.0	2.8	
	地域から信頼される学校	HP・学校だよりを利用して学校の情報発信に努め、地域社会及び中学校との連携を深める。	HPは随時更新する。学校だよりは毎月作成し、各家庭や中学校へ配付するとともに、タブレット・HPにも掲載する。	3.2	3.6	
		P T Aとの相互理解を深め、活動の活性化を図る。	各種行事の参加案内を2週間前を目途に配付するとともに、メールメイトでも周知する。	3.8	3.6	
	教員の資質向上	各種職員研修や報告会を定期的に開催する。	教務、生徒育成、保健相談に関わる研修会を各1回以上行う。 (教務部研修テーマ：観点別評価総括方法、指導と評価の年間計画等)	3.6	3.6	
		各種研修会と、研修の充実を図る。	学期に1回は行う。	3.2	3.6	
		I C T (タブレット端末を含む)を活用した指導法の研究に努める。	公開授業を年間を通して行う。 I C Tの活用事例を紹介する。	2.8	2.8	
	読書活動の推進と図書館の充実	「読書の時間」等を通して、生徒の読書量を増やしていく。	毎日「朝の読書」を実施する。	3.0	2.8	
生徒の興味・関心を促すような図書を購入し、図書館の充実に努める。		年2回以上希望図書の購入をおこなう。	3.2	3.2		

令和5年度 分掌・学年努力目標 [年間評価]

[4:大変良い 3:良い 2:あまり良くない 1:良くない]

分掌名	目 標	具体的方策	目標数値また期間	前期評価	年間評価	問題点・課題等	
生徒育成部	生徒指導班	容儀指導の徹底を図る。	年間8回の容儀検査を実施し、粘り強い指導を行う。再検査0を目指す。	3.0	3.3	<ul style="list-style-type: none"> ・生活面は概ね落ち着いた状況で良好だったが、一部の生徒で指導に苦慮した。 ・集会時の集合状況も随分改善されている。 	
		公と個の場面を理解して、自らの行動を律することができるようにする。	特に集会時の無言整列については徹底して指導する。	3.4	3.5		
		生徒の自主性を育む。	生徒必携のスケジュール欄を活用して、生徒に自己管理をさせる。	2.6	2.6		
		授業の開始時間を厳守させる。	全教員が意識して取り組む。特に8:25入室着席を徹底して指導する。	3.4	3.8		
	公共心の育成	乗車マナーの向上を図るため、JRおよび島鉄の乗車指導を徹底する。	JRのマナーアップキャンペーンに合わせて乗車指導を実施する。	3.0	3.1	<ul style="list-style-type: none"> ・2学期に島鉄の乗車マナーに対しての苦情があり指導したが、それ以後苦情はない。 	
		駅や学校周辺の商業施設での利用マナー等の指導を強化する。	毎朝の登校指導に力を入れる。考査期間には職員で校外巡視を行う。	3.8	3.9		
	生活美化委員会の充実	挨拶の励行を図るため、職員・生徒が一体となり「挨拶運動」を推進する。	生徒会と協力して「挨拶運動」を計画する。	3.8	3.9	<ul style="list-style-type: none"> ・3学期も校内美化週間を設定したい。 ・ヘルメット着用に向けての指導を強化したい。 	
		掃除の徹底を図り、清潔な学習環境づくりに努める。	学期に1回、生活美化委員による掃除の実施状況の点検を行う。	3.6	3.9		
		駐輪場の整理整頓および安全確認に努める。	自転車通学生集会を年2回実施する。	3.8	4.0		
	分掌・学年等との連携	各学年・各分掌との連絡を密にし、指導の強化を図る。	生徒の実態把握を深めるために必要な情報を共有する。	3.6	4.0		
	生徒会指導班	自治能力の育成	リーダー研修によるリーダーの育成を図り、定期的な総務委員会を運営し、生徒の自主性を育む。	随時	3.5	3.5	<ul style="list-style-type: none"> ・新生徒会総務も順調に活動を展開している。能登半島地震に対しての募金活動を生徒自ら提案し、意欲的に活動してその成果も十分にあった。 部活動の存続・統廃合について、次年度に向けて検討が必要である。
		活動の活性化	挨拶を励行し、生徒会スローガンの実現に向けた取り組みを行う。	生徒会総務で一学期あたり5回以上の挨拶運動を行う。	3.8	3.8	
			各行事がより活性化するように内容を工夫し、スムーズな運営に努める。	行事の一週間前までに要項を作成し、生徒への周知を図る。	3.3	3.5	
			各種委員会において、具体的な活動内容を定め、各分掌と連携しながら取り組む。	学期毎に委員会の目標・活動内容を教室掲示し、必要に応じ全校集会等で周知する。	2.8	2.8	
全員部活動制の意義について共通理解を図り、各学年と連携して、無所属生徒の部活動編入を勧める。			入学時に丁寧な説明をするとともに、特殊事情のある生徒に配慮しつつ、原則として全員入部とする。	3.2	3.2		
活動等の見直し		部室の使用状況を定期的にチェックし、部室を適正に使用するよう指導する。	年間4回部室の清掃を行い、定期的にカギの返却状況をチェックする。	3.4	3.7		
	会則・内規・申し合わせ事項の運用状況を確認し、必要に応じて見直しを図る。また、長期的な展望に立って生徒会予算を編成する。	2学期終了までに部内で検討を行い、3学期の部顧問会・職員会議に諮る。		3.5			

令和5年度 分掌・学年努力目標 [年間評価]

[4:大変良い 3:良い 2:あまり良くない 1:良くない]

分掌名	目 標	具体的方策	目標数値また期間	前期評価	年間評価	問題点・課題等
進路指導部	学習の定着と基礎学力向上	進路希望調査実施と学力向上につながる補習・模試の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・進路希望調査を年3回実施 ・Eトレ、補習、模試の有効活用、夏季学習会と冬季学習会の実施 ・各学年・教科と連携をとり、学力検討会を実施 ・ICT推進担当と連携をとり、ICT教育の環境を整備する。 	3.0	3.0	<ul style="list-style-type: none"> ・本年度から、求人票をデータ化し、タブレットで検索できるようにした。このことで、就職活動の効率化が図れたことに加え、2年生にも示すことができたので、2年生の生徒の意識向上にも役立てることができた。 ・模試データを、担任と共有することができているので、生徒の進学指導に役立てることができている。 ・進路からの、情報の提供が少なかった。来年度は、進路便り等、情報の提供を充分に行っていきたい。
		進路実現のため全職員による進路体制の確立		3.0	3.0	
		Eトレ、補習・長期休業中の学習会で学習習慣の定着		3.0	3.3	
		ICT（タブレット）を活用して「主体的な学び」の推進		3.5	3.3	
	個々の進路意識の高揚	早期の進路目標の確立	<ul style="list-style-type: none"> ・講演会や進路集会を各学年2回開催 ・2年次でインターンシップを実施 ・小論文・教科の添削指導 ・受験前に5回以上の模擬面接 ・企業面談会・職場見学への参加 	2.8	3.0	
		インターンシップで職業観の育成		3.4	3.3	
		個に応じた小論文・面接・教科指導等の計画実施		3.3	3.0	
	進路情報の提供 進路室の有効活用	進路希望を把握し、適切な進路情報の精選と迅速な提供	<ul style="list-style-type: none"> ・各クラスに進路に関する情報誌等を年6冊配布 ・「進路だより」を年5回以上発行 ・定期的な資料の更新とデータの整理 	3.3	3.2	
		『進路だより』等で情報の提供を行う。		2.3	2.5	
		模試データ等を分析し、学年や教科と情報の共有・有効活用		2.8	2.7	
		進路情報のデータの系統的整理整頓		2.8	3.0	

令和5年度 分掌・学年努力目標 [年間評価]

[4:大変良い 3:良い 2:あまり良くない 1:良くない]

分掌名	目 標	具体的方策	目標数値また期間	前期評価	年間評価	問題点・課題等
保健相談部	規則正しい生活習慣の確立	自己管理能力の具体的な手だての実施	『保健便り』を年間12回発行し、啓発する。	3.8	3.8	<p>・不登校や困難さを抱える生徒への対応については、学校としてできることはやっているとと思うが、結果的に本人の希望通りといかないことが多い。家庭環境に課題を抱えている生徒も多いので、SSWやSC、またそこからの行政や専門機関との連携を活かして、生徒の学校生活やこれからの支援に繋げていけばよいと思う。</p> <p>・いじめ悩み調査後の動きに遅れが出たことがあった。可能な限り速い情報共有や対応を心がけていきたい。</p> <p>・EAST Compass通信の配布が滞ってしまった。校内での先生方の支援や配慮の実践の報告をたくさんしていただいているが、それを全職員へ通信を通して共有する予定であったが、少なかった。年度末まで可能な限り配布できるように努めたい。</p>
		健康診断の事後指導の徹底	該当生徒の保護者への連絡を徹底する。	3.8	3.8	
	安全で衛生的な教育環境の整備	救急の場合の円滑な生徒への対応の実施	校医との連携をスムーズに行い安全面の強化を図る。	3.8	3.9	
		安全安心な教育環境の構築	安全点検を毎月・安全衛生委員会を年2回開いて、問題点の解決を図る。	3.8	3.9	
	学校生活への適応援助活動の徹底	来談生徒への受容的態度の徹底、心を開く環境作りの整備	来室しやすい相談室となるよう心掛ける。	3.8	3.9	
		不適応生徒の早期発見・支援	日頃から担任・学年との情報共有を図る。	3.0	3.9	
		いじめの予防・解消、各種調査の実施と分析	いじめ・悩み調査を年5回実施し、迅速な発見と対応をはかる。	3.0	3.6	
		生徒理解のための心理テストの実施と活用	テストバッテリーM2+検査の報告会を、1学年に1学期中に実施し、検査結果を各学年の教員へ回覧する。	3.5	3.3	
	各分掌・学年・SC・SSW・保護者・中学校・外部機関との連携の深化	スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーや担任・学年との連携の強化	スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、養護教諭、担任・学年との連携を密にし、コンサルテーションを実施し、適切かつ迅速な対応を行う。	3.3	3.9	
		事例研究等をすすめ、職員の共通理解を深化させる職員研修の実施	A T合格者発表後、中学校訪問を実施し、新入生に対する適切な支援・指導に役立てる。中学校訪問報告や事例研究を含め職員研修を年間2回行う。	3.8	3.5	
	地道で円滑な奨学金の手続きの支援	各種奨学金の紹介、手続きの徹底	必要に応じて、生徒・保護者への説明会を行う。	4.0	3.7	
	教育活動の土台としての人権教育の推進	生徒の自尊感情・思いやりの心の育成	講演会（年2回）を実施する。適宜、機会をとらえて集会などで呼びかける。	3.2	3.8	
	特別支援教育の充実	新入学生徒の実態把握、及び個別の支援や通級による指導の必要性の判断	困り度チェック後の面談や学年団教員による実態把握を行い、「発達障害の可能性のある生徒を把握するためのチェックリスト」などを計画通りに実施する。	3.2	3.0	
		複数の目による支援や指導の方法の検討と評価	各学年会で「個別の教育支援計画」「通級による指導」の内容等の検討、学期末の評価を行い、その後の指導改善を図る。	3.2	3.3	
特別支援教育に関する情報の発信		EAST Compass通信を年間10回程度発行する。また、個別の教育支援計画を担任と特別支援教育Co.とで協力して作成する。	3.8	3.5		
事務部	組織的取組の推進	学校窓口としての認識（丁寧な来客・電話対応等）	日々の対応について心がける。	4.0	4.0	<p>目標は達成はできていた。多くの職員の協力、サポートのおかげで、円滑な業務運営が行えた。協働体制が構築できていたことが、満足できる結果を生み出したものと考えている。</p>
		教育行政の円滑化（県教委・校内各担当者との迅速な報告・連絡・調整）	案件ごとに対応する。	4.0	4.0	
	適正な会計処理	公費…長崎県財務規則に則った計画的かつ適正な予算執行	案件ごとに対応する。	4.0	4.0	
		私費…適正な会計処理と、教育職員へのアドバイス	会計処理ごとにチェックを行う。	4.0	4.0	
	教育環境の整備	快適で質の高い施設設備の充実（維持補修・施設整備計画の策定と令達後の迅速な執行）	年1回要求、緊急案件については随時要求。令達後は早期執行する。	4.0	4.0	
		計画的な環境整備 安全点検報告箇所への迅速な対応	環境整備については随時行う。毎月1回の安全点検結果で報告された箇所について迅速に対応する。	4.0	4.0	

令和5年度 分掌・学年努力目標 [年間評価]

[4:大変良い 3:良い 2:あまり良くない 1:良くない]

分掌名	目標	具体的方策	目標数値また期間	前期評価	年間評価	問題点・課題等
1 学 年	育てたい生徒像	気持ちの良い挨拶の励行、礼儀や言葉遣いの指導を徹底し、集団生活を営む力を持った生徒を育てる。	始業時・終業時はきちんとした挨拶を徹底させる。職員室や授業中の言葉遣いで不適切なものがあれば、その場で指導を行う。	3.1	3	【課題】 ・挨拶は「いつも、どこでも、誰にでも」の意識が薄い。 ・進路についての情報提供を行い、意識を高める取り組みが必要。 ・「予定ファイル」「スタサブ」は十分に活用できていない面がある。 【前回より改善した点】 ・大半の生徒が落ち着いた生活を送ることができるようになってきた。 ・「言葉遣い」「始業時間の厳守」「課題提出」など、先生方の粘り強い指導により意識の低い生徒も少しずつ成長し改善してきている。 ・困難を抱える生徒への個別の支援や配慮が徹底されており、たくさんの生徒が助かっている。
		端正な身なり、時間厳守などの基本的な生活習慣を身につけさせ、高い規範意識を持った生徒を育てる。	容儀検査だけでなく、普段から全職員で生徒を観察する。提出物の期限や授業開始の時間を厳守させる。	2.8	2.6	
		学校への帰属意識が高く、自己肯定感持ち、自信に満ちた生徒を育てる。	学校行事・総合的な探究の時間・部活動・生徒会活動・ボランティア活動等に積極的に参加させ、一人一人が主役となれる場を提供する。	3.3	3.2	
	生徒基点の発想による一人ひとりを大切に する教育の実践	生徒や保護者との面談を積極的に行って情報を共有し、保護者との連携を深める。	生徒との面談は必要に応じて、場合によってはTeamsなどを利用して行い、保護者面談は年1回以上実施する。生徒の学校生活の様子は学期ごとに学年通信で知らせる。	3.3	3.4	
		学年団・学校内での情報共有を密にし、一人ひとりに応じた支援を通して生徒の心身の健全な育成を図る。	授業内外や行事等で生徒の様子を観察し、学年会等で情報共有を行う。また、保健相談部や生徒育成部と連携をとり、校内での支援を充実させる。さらに必要に応じて外部機関との連携など迅速な対応をする。	3.3	3.8	
		安易な遅刻・欠席をしないようにする。	保護者から欠席・遅刻の連絡がない場合は、その日のうちに担任から連絡をして状況を把握する。必要に応じて家庭訪問、面談などを行う。	3.0	3.6	
	学力の伸長	基礎・基本を重視した分かりやすい授業を通して、授業が第一という態度を育て基礎学力の定着を図る。	授業での規則を徹底し、ICTなどを活用して分かりやすく、効果的な授業を展開する。	2.8	3.3	
		家庭学習の時間を増やし、課題や提出物の期限を厳守させ、学力を向上させる。	毎日SHRで予定ファイルを使って翌日の時間割などを確認させ、家庭学習に臨ませる。	2.8	2.8	
		学習意欲を向上させ、自ら学ぶ姿勢を育み、進路に対する意識を高める。	Eトレ等でスタサブを活用し小中学校からの復習を徹底させ、学習への苦手意識を軽減させる。また、知的好奇心を高める授業を計画的に行う。さらに、教室には進路情報を提供し、生徒に積極的に手に取るように促す。	2.9	3	
	教育環境の整備	掃除の徹底を図り、清潔で明るい学習環境づくりに努める。公共物を大切にすることを育てる。	掃除は毎日監督につき指導し、生徒が快適な学習環境を整える力をつける。机とロッカーの中を整理させ、私物をロッカーの上に置かせないようにする。	3.3	3.5	
2 学 年	育てたい生徒像	中堅学年としての自覚を持たせ、礼儀や場に応じた言動の指導を通して集団生活を営む力を向上させる。	始業時・終業時の挨拶、提出物の期限厳守を徹底させる。職員室や授業中の言葉遣いについては、その場で適切に指導する。	3.2	3.1	学年団全員で、他分掌とも連携して指導することができた。配慮や支援が必要な生徒に対しては、保護者も含めての対応になり、すぐ対応したとしてもなかなか改善されないことが多かった。学習面では課題への取り組みが不十分な生徒が成績不振に陥る悪循環を改善し、進路目標達成に向けての学力向上を最優先としたい。また、マナーや思いやりなど、集団生活での規範意識、当事者意識を育てていく必要がある。
		端正な身なり、提出物の期日厳守などの基本的な生活習慣を身につけさせ、自己への敬愛と協力の精神を身につけさせる。	容儀検査に1回で合格するよう指導する。再検査の場合も1回で合格するよう指導を徹底する。提出物の期限や授業開始の時間を厳守させる。	2.8	2.8	
		学校行事・部活動・生徒会活動に積極的に参加させ、学校への帰属意識を高めさせる。	委員や係の活動を活性化するなどして、自分の学校に誇りを持ち、自主的に取り組む意識を持たせる。	3.0	3.5	
	生徒基点の発想による一人ひとりを大切に する教育の実践	生徒や保護者との面談を積極的に行って情報を共有し、保護者との連携を深める。	学年団・学校内での情報共有、支援を通して生徒の心身の健全な育成を図る。学年通信を月1回以上発行し、生徒の学校生活の様子を知らせる。	3.0	2.9	
		素直で、思いやりにあふれる温かい人間関係の確立を通して自己肯定感を高めさせる。	保護者から欠席・遅刻の連絡がない場合は、その日のうちに担任から連絡をして状況を把握する。必要に応じて面談、家庭訪問などを行う。	3.3	3.4	
		授業及び総合的な探究、その他の活動を通して地域や世界のために行動する意識を持たせる。	総合的な探究の時間を有効活用し、地域に密着した学習を行う。	3.6	3.7	
	学習・進路指導の充実	基礎・基本を重視した分かりやすい授業を通して、基礎学力の定着を図る。	チャイムと同時に授業を開始し、ICTなどを活用して効果的な指導をする。	3.5	3.8	
		自ら学ぶ姿勢を身に付けさせ、家庭学習の時間を増やし、進路に対する意識を高めさせる。	Eトレに積極的に取り組ませ、学習への苦手意識を軽減させる。適切な進路情報を提供し、進路研究に努めさせる。	3.0	3.2	
インターンシップやオープンキャンパスを通して、進路に対する意識を高めさせ、適切な進路志望を選択をさせる。		インターンシップへ取り組んで企業研究を進めさせ、自己肯定感を持たせる。オープンキャンパス・スクールへの参加などを促し、早めに進路目標を立てさせる。	3.4	3.4		
教育環境の整備	掃除の徹底を図り、清潔で明るい学習環境づくりに努める。公共物を大切にすることを育てる。	掃除は毎日監督につき指導し、生徒が快適な学習環境を整える力をつける。机とロッカーの中を整理させ、私物をロッカーの上に置かせないようにする。	3.6	3.8		

令和5年度 分掌・学年努力目標 [年間評価]

[4:大変良い 3:良い 2:あまり良くない 1:良くない]

分掌名	目 標	具体的方策	目標数値また期間	前期 評価	年間 評価	問題点・課題等
3 学 年	育てたい生徒像	最高学年としての自覚を持たせ、学校生活全般にわたって下級生の模範となれる生徒を育てる。	私物を机・ロッカーの上に置かせない。授業の担当者は極力チャイムと同時に教室に入るようにする。	3.2	3.2	<ul style="list-style-type: none"> ・私物の放置で指導される生徒が、わずかにいた。 ・一人一人を大切にできる教育を実践できた学年だと思ふ。 ・言葉遣いや礼儀、適切な表現力の指導については、課題が残ると思う。(1年次からの継続した指導が重要だと思ふ) ・容儀指導では、改善の見られない生徒が固定された。 ・学習習慣については、あまり満足いく指導では終わらなかった。 ・日頃の言動には、社会に出していいのかと不安になる面もあったが、学校行事などの準備では、率先して行動する姿も見られ、3年間の成長も感じる事ができた。
		学校行事・部活動等に積極的に参加させ、下級生をしっかりとリードする。	体育祭や部活動の運動部・文化部で中心的役割を担わせる。	3.8	3.8	
		挨拶の励行、目上の人に対する言葉遣いや礼儀、適切な表現力を身につけさせ、「共生する力」を育てる。	根気強く日常的に指導して、社会人として通用するレベルを身につけさせ、いつでも自然な挨拶ができるようにする。	3.0	3	
	学習・進路指導の充実	受験に対応するために生徒の学力に応じたEトレ、学習会、添削指導等を行う。	目標の進路実現のために、志望先の受験に合わせた少人数教育や個別指導を充実させる。	3.7	3.6	
		家庭学習の習慣の定着を図るため、宅習プリント等の提出を徹底させる。	毎日点検を行い、未提出の者は放課後居残りさせて提出させる。	2.7	2.6	
		生徒に適切な進路情報を提供し、進路に対する意識を高めさせ、目標とする進路実現の一助とする。	個人面談を随時実施し、進路情報の掲示板を有効活用する。	3.8	3.8	
	生徒基点の発想による一人ひとりを大切に する教育の実践	生徒の進路について保護者との連携を密にする。	三者面談については、必要な生徒は2回以上実施する。	3.8	3.6	
		清潔で、端正な身だしなみをさせる。	容儀検査で指導される生徒を10人以下にする。	3.2	3	
		生徒の生活面について保護者との連携を密にする。	安易な欠席、遅刻、早退などを防ぐと共に、保護者への連絡を行い、社会人としての生活習慣を確立させる。	3.7	3.6	
	保健・環境美化指導の 充実	体調管理をしっかりとさせ、規則正しい生活を送らせる。	学年の年間出席率96%以上。皆勤5名以上、年間無欠席20名以上。	3.2	3.2	
掃除の徹底を図り、清潔で明るい学習環境作りに努める。		毎日監督につき指導する。公共物の破損には厳しく対応する。	3.3	3.6		